

はまかせ

風が運ぶお知らせ便り♪

ワンランク上の病院をめざして

私たちは、患者さんの意思を尊重し、高度で良質な医療を提供することによって、地域社会に貢献します。

nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp

Message メッセージ

救命救急センター — 病院前医療と災害医療 —

■概要、Q&A、スタッフ紹介 etc.

Information お知らせ

■にしびょうTopics

「えべっさねっと」を使って

■新人、若手教育

- ・診療部より専攻医の声、研修医の声
- ・救命救急センターで働く放射線技師の教育

■院長エッセイ「四季雑感」

高齢者の低血糖発作

■医療技術NOW!

Perilipin(ペリリピン)

■絵の中の風景を旅するvol.8

にしびょう美術館館蔵品を毎回紹介



救命救急センター — 病院前医療と災害医療 —

副院長・救命救急センター長：鴻野 公伸



● 出動直前のラピッドレスポンスカー



● 訓練参加中の当院DMAT

平 素は病院運営にご協力いただきましてありがとうございます。今回は救命救急センターにおける病院前医療と災害医療について紹介させていただきます。

..... 病院前医療

阪 神地区における病院前医療は、長年、西宮市消防局が行うドクターカー制度に限られていましたが、昨年11月から当院では西宮市を始め阪神地区6市1町（西宮市、尼崎市、芦屋市、宝塚市、伊丹市、川西市、猪名川町）を出動エリアとして、ラピッドレスポンスカー（ドクターカー）の運用を開始しました。これまで西宮市以外の阪神地区で発生した重症事案では阪神圏域外の救命センターへドクターカーの要請が行われていましたが、当院から出動することで現場までの到着時間が格段に短縮されただけでなく、救命率の向上に寄与するものと考えています。昨年11月から本年8月までの出動件数は135件でした。

..... 災害医療

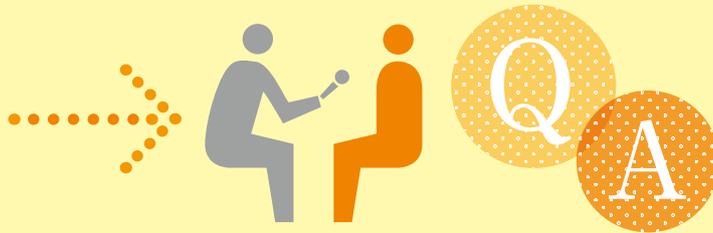
平 成23年、救命救急センター指定を契機に、DMAT指定病院、災害拠点病院にも指定され、今年2月には

近隣で発生した大規模災害を想定した当院初の災害訓練を実施致しました。今年度以降も地域の消防や医療機関と連携を取りながら継続開催を行う予定であり、災害医療に関しても阪神間における、まさに拠点病院となるべく取り組んで行く所存です。また、今年9月には、高規格救急車をベースとしたDMATカーが導入されました。全国で開催される災害訓練等に積極的に参加するだけでなく、現存のラピッドレスポンスカーとともに平時はドクターカーとして運用し重症患者の病院間搬送にも活用しており、阪神地区における病院前医療の更なる充実の歯車になっております。

兵 庫県立西宮病院救命救急センターは、これまで以上に阪神間に密着した救命救急センターとして救急医療への貢献を目指しております。今後ともご指導・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

救命救急センターについて質問!

INTERVIEW



Q

救命救急センターの看護師って難しそうだけど一般病棟の看護師と違うの?

A

いいえ、原則は変わりません。しかし、多種多様な患者様に対応できるように、卒後3年で院外活動での救急対応ができることを目的に、独自の教育システムを構築し取り組んでいます。その成果もあり、学会発表などを積極的に行い、看護の質の向上が図れています。

Q

面会時間は決まっていますか?

A

以前は日中1時間・夜間30分間としておりました。しかし、「救命救急センターにおける家族看護」としての取り組みを行うなかで、ご家族との時間を大切にさせていただきたいと考え、昨年度から日中・夜間共に2時間ずつに延長しています。そのほかにも、個別に時間調整をさせていただいています。

(救命救急センター看護師長 永井 真奈美)

最新情報

□DMATカー

このほど「DMATカー」を配備しました。DMATカーとは、災害時に医療スタッフが搭乗して出動し、災害現場で速やかな救命活動や医療行為を行うための資器材を装備した自動車です。当院は災害拠点病院の指定を受けており、専門的な訓練を受けた医師5人、看護師3人、業務調整員2人のスタッフがDMAT(災害派遣医療チーム)を編成し万々に備えています。DMATカーは、災害時や災害訓練に出動するのはもちろんですが、平時においてはドクターカーとして運用し、救急現場に向かうことで現場から医師、看護師による医療が速やかに開始されることで救命率の向上を目指すほか、重症患者の病院間搬送にも活用します。



スタッフ紹介



- 鶴飼 勲(救命救急センター救急科部長)
- 二宮 典久(救命救急センター救急科部長)
- 毛利 智好(救命救急センター救急科医長)
- 北田 真平(整形外科医長)
- 村上 裕美(看護師)
- 下垣 美香(看護師)
- 仁枝 淳(看護師)
- 末森 千加子(薬剤師)
- 東村 義志(臨床検査技師)

「えべっさねっと」を使ってみて



(ふじた内科クリニック: 藤田雅史先生)

医療を担う県立西宮病院とをインターネット回線を利用していつでも県立西宮病院の先端医療機器を予約できるようにしたシステムのことで。当院では訪問診療も行っているのですが、訪問診療先でもタブレット等の携帯端末を利用して

県立西宮病院の皆様にはいつも大変お世話になっております。本日は私が診療に利用させていただいております「えべっさねっと」について紹介させていただきます。「えべっさねっと」とは地域の開業医と先端

「えべっさねっと」にアクセスすることで、その場で患者様と一緒に画像を見て説明することができるので大変便利なシステムです。多くの開業医は自院にある限られた医療機器で診断をしないと いけません。「えべっさねっと」を通じて大病院の先端医療機器で画像診断が行え、迅速にネットで画像や所見を返信していただけることは大変心強く思っております。今後とも病診連携をよろしくお願い致します。

(ふじた内科クリニック 藤田雅史)



西宮市西宮浜4-14-3 マリナヴィラ1F

新人若手教育

専攻医の声

大阪で初期研修を行い、今年の4月より救急科に所属しております。当院救急科は2次・3次救急を担っており、阪神圏内の救急医療に貢献しております。またラピッドレスポンスカーの運用を行い、救命率向上を目標に日々現場に出動しております。9月からはDMATカーの運用も開始して来るべき大規模災害に備え、普段は転院搬送等へ活用しております。転院搬送時には近隣病院の先生方のお目にかかることもあるかと存じ上げますが、その時はどうぞ宜しくお願い申し上げます。

(専攻医: 松浪周平)

研修医の声

九州育ちの私にとって、地元ではない西宮での研修生活に初めは不安を感じていました。しかし、当院には西宮市在住の患者さんが多く、地元のことについて教えて頂くことも多々あり、今ではすっかりこの地に馴染み落ち着いた研修生活が送れています。患者さんには医師としてだけでなく人として育てて頂いていることに感謝の気持ちでいっぱいになり、少しでも地元の方々の役に立てる存在になりたいと強く感じる毎日です。今は未熟ですが、これからも患者さんとの対話を大切に、今後の地域医療を担う存在になれるよう、精進して参りたいと思います。

(研修医: 吉永光宏)

放射線部新人研修

放射線技師としてはベテランでも転勤により初めて救命救急センターで撮影業務を行うことになる場合があります。そのような救急診療における撮影業務では新人となる技師が困らないように放射線部では放射線技術の標準化、マニュアル化を行っています。また、研究会等に参加して得てきた情報について共有化を図るよう努めています。

(検査・放射線部: 竹鼻宏明)



初療室から見た救急撮影室

四季雑感



い よいよ食欲の秋になりました。若い頃のように手当たり次第に秋の味覚を満喫するということはなくなりましたが、体重を気かけながら自然の恵みを有難く戴こうと思っています。

今年に入って高齢者が低血糖発作を起こして緊急入院する症例が複数例ありました。いずれの症例も数日前までは少ないながらも食事を摂取しており、入院後の検査からインスリノーマなどの腫瘍に随伴する低血糖ではないことが分かりました。また経口糖尿病薬などを服用していたわけではありませんでした。

どの症例も感染性胃腸炎などで発熱と下痢があり、経口摂取がほとんどなかったために、低血糖発作を起こし、意識消失があったようです。このうち一例は輸液による栄養補給にかかわらず、入院後にも低血糖発作を起こすなど重篤感がありました。

いろいろ考察ができると思いますが、幼小児では、慢性の栄養不良状態にあると、肝臓の糖新生能力が低下し、

いざという時に肝臓からブドウ糖を放出できず、低血糖発作を起こすようです。とくに感染性胃腸炎を起こすと、肝臓にエンドトキシンが流入し、これが糖新生の重要な酵素を阻害することで低血糖発作の誘因になるそうです。小生は高齢者においても同様に考えてよいように思っています。

近年、生活習慣病への理解が深まり、県民の健康志向は高まっています。しかし一方では、高齢者の栄養不良が指摘されはじめています。以前に他府県で開催された健康講座で「脂肪肝と生活習慣」について話題提供をしたことがあります。二百名ほどの参加者のほとんどが高齢者であり、かつ全員と言ってよいほど、聴衆はスリムな体型をされていました。

かつて「はまかせ」で若い女性のスーパースリムについて書かせていただいたことがあります。高齢者においても栄養状態を良好に保つことの大切さを感じています。



兵庫県立西宮病院 院長
河田 純男



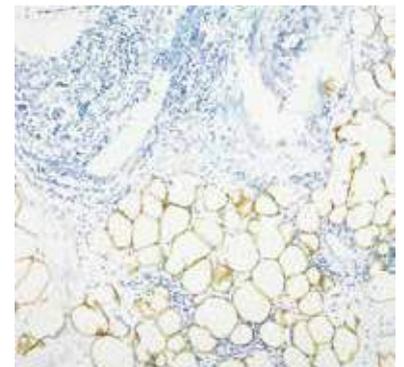
医療技術 NOW!

西宮病院の「今」がわかる。

【Perilipin】

Perilipin(ペリリピン)とは、脂肪細胞内の脂肪滴周囲に存在する蛋白で、脂肪滴の増大と分解の両者に必須な蛋白です。当院和田消化器内科医長(旧姓池添)らが、大腸粘膜下の脂肪蓄積とメタボリックシンドロームとの関連性を検討した際、検査部にて抗Perilipin抗体を用いた免疫組織化学染色を実施し、大腸粘膜下組織の脂肪滴証明に成功しました。検査部は、日々専門技術を研鑽することで、診療だけではなく研究分野への支援も可能なワンランク上の検査部を目指しています。

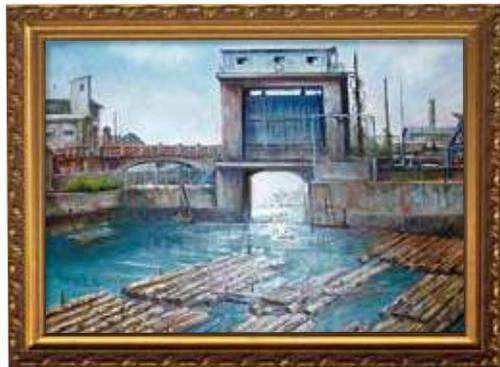
(検査・放射線部: 真田 浩一)



絵の中の風景を旅する vol.8

<http://www.nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp/>

当院外来ロビーや各病棟には、地域の方々や入院患者さん、そのご家族などからのご寄贈による200点以上にもぼる絵画が飾られています。“にしびょう美術館”の貴重な“館藏品”は、当院ホームページ内の「にしびょうWebミュージアム」でも常設展示していますが、これらの作品の中から、毎回、ちょっと気になる1作品をとり上げてご紹介いたします。と一緒に、絵の中の風景を旅してみませんか。



展示場所

本階2階
内科外来前



この貯木場はどこ貯木場だろうか？

この作品を見ていると、頑丈な水門に囲われ、木材1本、1本の長さを一定の長さにそろえ、さらに、移動しやすいように間隔を空けて区別されており、施設が整った都会の貯木場であることがうかがえる。近年は現地で加工・製品化した輸入木材が増大したため、国内木材が影響を受け、これまでの水中貯木場を埋め立てて、海浜公園等として都市的土地利用を行うことやマリーナへ転用されている。しかしながら、これらの貯木場は、江戸時代初期から都市部の海岸線や河川の河口付近で発達した日本の文化であり、この懐かしい風景をいつまでも残してほしいと思う。

(総務部:足立彰久)

～ご案内～

11月15日(土)・16日(日)	緩和ケア研修会 (PEACE)	募集は締め切っています
1月24日(土) 14:00～ 県立西宮病院	第8回 地域連携懇談会	耳鼻咽喉科疾患診療 脳神経外科疾患診療 整形外科疾患診療 骨密度検査
2月7日(土) 14:00～ フレンテ西宮	第11回 県民公開講座	生活習慣病について ・腎臓病・心臓病・食事療法
2月28日(土) 14:00～ フレンテ西宮	第5回 阪神南圏域合同セミナー	「認知症患者の地域連携(仮題)」

編集後記

編集室



日に日に天高く秋色が濃くなって参りました。今年は、各地で記録的な大雨による甚大な被害もたらされ、改めて自然災害の恐ろしさを感じ知らされた夏となりました。

いつも、「はまかぜ」をご覧いただきありがとうございます。地域の先生方とは、「顔の見える連携」を大切にしながら、信頼される地域医療支援病院を目指し日々努力して参りますので、今後とも、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

(栄養管理部次長:大岡智子)

兵庫県立西宮病院

〒662-0918 兵庫県西宮市六湛寺町13番9号
TEL:0798-34-5151(代表) FAX:0798-23-4594
地域医療連携センター FAX:0798-34-4436
E-mail:chiiki-kn@hp.pref.hyogo.jp

nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp

2014.11 発行

H A M A K A Z E

2014
Vol.08